



第1061号
2007年12月16日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

WEB: http://www.nskk.org/tokyo/index.htm E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

◇12月の代祷・信施奉献先

▽世界エイズデー▽聖書の主日
(降臨節第2主日)▽聖救主福音
社会▽部落解放キリスト者運動
のため

◇堅信受領

12月2日 目白聖公会で
▽久保田和彦▽山田和子▽塚田和
代▽西村香織▽竹村隼輔(目白)

◆教役者レクイエム

12月19日(水) 10時半

主教座聖堂

説教

山口千寿司祭
▽主教佐々木鎮次▽司祭奥村亮▽
司祭岩井祐彦▽司祭今宮良治▽司
祭吉沢直江▽司祭貴民之介▽司祭
清田海一郎▽司祭富田孫太郎▽司
祭竹内寛▽主教工藤義雄▽司祭加

藤九十九▽司祭秋吉光雄

◆とこしえの平安

11月13日 須貝 清子(97)
東京諸聖徒
11月27日 山本美智子(79)
聖アンデレ
11月29日 間紀 典子(67)
聖アンデレ

▽COAクリスマス会 中高

生による「まき★mas」を28日
(金)に目白聖公会で。10時JR
目白駅集合。また毎月第3主日
には「浅草日曜給食活動」ボラ
ンティア参加:。
▽クリスマス礼拝案内 各
教会・礼拝堂の「クリスマス礼
拝時間」一覧(24日~1月1
日)を本紙の本号付録および
教区HPで紹介している。

今週・来週の予定
12月16日~29日

- 16(日) 降臨節第3主日
合同堅信式
(主教座)
- 17(月) 財政委員会
- 18(火) 教区企画室
- 19(水) 教役者レクイエム
(主教座)
正義と平和協議会
運営委員会
- 23(日) 降臨節第4主日
主教巡回
東京聖三一教会
- 25(火) 降誕日
(教区事務所休業)
- 26(水) 山手G牧師協議会
主事会議
- 29(土) 教区事務所休業
(~1月6日)

(この用紙は再生紙を使っています)

年末の読書会で人間に与えられた神よりの
タラントに関するテーマの作品を取り上
げ、話し合った。テキストは、アナトール・
フランスの短編『聖母の曲芸師』。
神の被造物である私たちには、それぞれ
に適したタラントが与えられている。物語
の主人公である曲芸師バルナベは、目に一
丁字なく、地位、財産と
も無縁の人物で、世間
的に見れば底辺の人と
映っていた。それでも
バルナベは心が素直で
神の栄光を讃え、その
御名を冒流しない生活を続けた。

《恵みに生かされて》

タラント(神から賜った

技能)への自覚

ある日、彼は修道院の院長に出会い、そ
のすすめ、修道僧としての新生活に入っ
た。他の修道僧は、神より賜った技能の限
りを尽くして神に奉仕の毎日。バルナベは
わが身の無能を嘆きながらも自分が出る
神への奉仕手段を思い続けるが、絶望が先
に立ち苦しんでいた。

水谷進彦

か...

しかし、彼はとうとう自身に与えられた
タラントに気づき、礼拝堂で一人になれる
時間を利用し、全身の力を込めてマリア像
の前で神に捧げ始めた。院長は彼の態度の
変化に驚き、長老たちと図ってバルナベの
所作を観察するため、気づかれないように
して彼の姿を追った。その時、思わず院長
も長老も額を床に当てて唱
えの言葉を発した。―心直
ぐなる者は幸いなり。彼は
神を見た。アーメン。―
さて、彼らが見たバルナ
ベは何をしていたのだろう
か...。
今年も人間不信を示す事件が続出し、「美
しい国造り」の掛け声が空しく響き渡る。
こんな時こそ、心を澄まし神よりのタラン
トを正しく理解して、その正しい用い方
を自覚し、日々神の栄光を讃え、神を畏れ
る毎日を送り、新しい年に備えたいと願っ
ている。(東京聖マリア教会信徒)

◇神学院の入学試験

08年度の聖公会神学院入学試験が来年2月7日(木)～9日(土)、同学院で行われる(寮内泊)。受験資格は大学卒業業者(含明年3月卒業予定者)または同等の学力を有すると認められた教会の聖職・奉仕職を志している者、その職務に従事している者。試験内容は聖書、英語、小論文、面談。受験料5万円、願書締切日は1月31日(木)。入試に関する電話照会は同学院03(3701)0575へ。

◇来夏開催、工教区共催女性会議へ参加者募集

東京教区とエルサレム教区ではこれまでの交流の成果を踏まえ、来年8月15日(金)～23日(土)、ヨルダンの首都アンマン

で女性を中心とした会議を開くことにし、工教区協働委員会(長・神崎雄二司祭)では参加者募集を呼び掛けている。募集人員は15名前後で参加費は約25万円(交通費・宿泊費等)。会議はテーマ「出会うことから新たな一歩へ」のもとに双方の基調報告、聖書の学び、聖公会の施設訪問、文化交流、聖地訪問などを計画。申込締切は1月15日(火)。案内文は各教会に送付済み。照会などは教区事務所宣教主事まで。

▽聖バルナバ教会で地域と取り組む新促進運動 「障害者とともに歩む教会」として教会内外のバリアフリーを目指す働きをつづける同教会は、先頃、至

近駅の地下鉄東西線神楽坂駅構内に、改札階と地上階を昇降するエレベーター設置を求める促進運動を始めた。公共輸送機関(東京メトロ)へ地域の人々、同駅利用者と共同しての運営プロジェクトの立ち上げ…、関心を呼びそうだ。

▽教区SS連絡会(SSS)で新春もちつき大会 このほど「こども・にゅーす」クリスマス号を発行した同会(代表〓高橋頭司祭)は、1月26日(土)に「もちつき大会」を開催することにし(13時～15時、会場〓浅草聖ヨハネ教会)、各教会日曜学校を通して生徒・スタッフ、友人、家族らに広く、参加呼び掛けをしている。照会Tel03(3338)4145。

【教区会可決議案】3

「聖公会神学院内で生じた人権問題に関する調査チーム」の活動内容の透明性・公正性に関するアカウンタビリティ確保のための提案

今回の議案書を読んだとき、私は共感を覚えたが、内容に驚いた議員や代議員も多かったのではないだろうか。

この議案は東京聖マリア教会代議員から出された。(1)調査の前提となっている「人権問題」の明確な説明、(2)調査の過程において、申立人、被申立人の一方に偏らず、双方からの十分な事情聴取の実施、(3)調査チームによる報告の一般開示、(4)調査

報告書作成時の、調査チーム構成員の氏名・所属機関、役職等の開示。以上4点、質疑と審議を経て、調査チームに課する決議となった。

この議案が上程された理由には、同議案にも記されているが、春の教区会で聖公会神学院問題について時間をとり、教区主教や常置委員長からの説明があったにもかかわらず、「聖公会神学院でいったい何があったのか」という肝心な問いに、だれも答えなかった背景がある。

また、主教から後日、事態説明の文書を配布することになったが、内容に不適切な表現があったという理由で中止、その後のフォローもないままに、さらに招集された聖職会でも、問

題に対する明確な説明がなされないまま、人事だけが先行して動いていく。

そのような経緯もあり、調査チームの名称にある「聖公会神学院で生じた人権問題」のその「人権問題」とは何なのか、きちんと説明して欲しいという真摯な願いからでた議案だった。

本来、この問題は神学院主導で調査・解明すべきであろう。しかし、それを第三者に委ねることになった今、委ねられた者の課題は、問題の調査・報告過程において、偏見なく、公正さ・透明さをもってどこまで真実に迫れるのか、そこにあると思う。むしろ、かしい課題を担っている。

司祭 前田良彦
(議案シリーズ・終)